

ながさき 教区報

2025年
冬号

ナガサキ・キョウクホウ

戦後80年全戦没者長崎教区追悼法要



contents

戦後80年全戦没者長崎教区追悼法要御礼

法要に参加して

2025年度教区仏教青年連盟 総会研修会

2025年度教区仏教少年連盟 ピースサンガ

第21回『平和のつどい』～全戦没者追悼法要～

終戦80年にあたって

予算書

宗務連絡事項



戦後八〇年全戦没者長崎教区追悼法要御礼

実行委員長 藤川 秀昭

(諫東組 浄真寺前住職)



戦後八〇年を迎えた今年、私たちは未来の世代に安心して暮らせる世界を残すために、「仏さまの声をきく／生きとし生けるものの平和のために」のスローガンのもと、戦後八〇年全戦没者長崎教区追悼法要を勤めることができました。

令和七年七月四日(金)十三時ご門主様ご臨席の下、^{へばる}邊春真乗長崎教区教務所長が「戦後八〇年全戦没者長崎教区追悼法要」を開催するにあたっての挨拶をし、本願寺派総長 園城義孝様より挨拶をいただきました。

十三時十分、オープニングとして今回の法要のコンセプト動画が朗読とともに映写されました。戦後の記憶と私たちへの問いかけがわかりやすい表現でまとめられました。映写終了後、会場が暗転し一筋の光が名号を照らし出しました。静かに雅楽が奏でられ、導師の教務所長と結衆の方々により厳かに法

要が勤まりました。その後、ご門主様のおことばによって、この度の法要の意義を参拝者にお示し下さいました。

十五時から芥川賞作家で長崎在住の青来有一さんの記念講演がありました。十六時から閉会式をし、法要のテーマを考案して下さった仏教青年連盟中央委員長長の近藤翔真さんへ表彰状を授与しました。恩徳讃斉唱のあと、閉式の言葉がありご門主様ご退出を拍手でお見送りし、無事に法要が終了しました。

私は閉式の挨拶で、私たちの行動の基である「御恩報謝」の意味を前門様のお言葉から「恵みにこたえる」ことであると話しました。

最後に、今回の法要に一年前からご尽力下さった各寺院並びにスタッフの皆様、そしてご出席下さった門信徒の方々に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。





すべての人々は、その名号のいわれを聞き
信じ喜ぶまことにそのとき
その信は阿弥陀仏がまことの心をもって
お与えになったものであるから
浄土へ生まれようと願うたちどころに
往生すべき身に定まり不退転の位に至るのである。
ただし、五逆の罪を犯したり、
正しい法を勝るものだけは除かれる



法要に参加して

宗派仏教青年連盟 中央委員 副委員長

高岡教区 仏教青年連盟委員

竹内 優美



高岡から長崎までは電車で約七時間かかります。一日移動に費やすことになるので、なかなか訪れる機会がありませんでした。そんな長崎に中央委員のご縁で初上陸出来たこと、こうして教区報の記事を依頼されている現実、つくづく何が起るかわからないなあと考えさせられています。

八〇年前も、まさか自分が命を落とすなど想像もしなかった方が大半だったことでしょう。

会場が暗転し、ライトに照らされたお名号がくつきりと浮かび上がる中で始まった追悼法要。行事鐘の鳴る厳かな空間、会場後方から参拝席を通り法中方がステージに上がる演出、平和への想いが込められた、力強い素晴らしいお勤めでした。

記念品としていただいたひまわりですが、帰宅してから種を植え、毎朝水をやりながら観察していた時間は小学生に戻ったかのように楽しかったです。連日の猛暑や警報級の大雨で何度も枯らしかけましたが、無事に咲いてくれたときは嬉しさのあまり邊春所長に連絡。その節は一緒に喜んでくださってありがとうございました。

長崎の皆さまのお聴聞の姿と優しさに触れ、新しい人脈の広がったこの法要。人生何が起るかわからないからこそ、毎日後悔のないように、大切に生きていきたいと改めて思いました。





2025年度教区仏教青年連盟

総会研修会

教区仏教青年連盟委員長

水上 恵

(長崎西組 金徳寺)



桜が散り、新緑が芽吹く4月17日、長崎教区仏教青年連盟では戦後80年全戦没者長崎教区追悼法要の関連事業として『Peace Education Lab』のフィールドワークに参加しました。

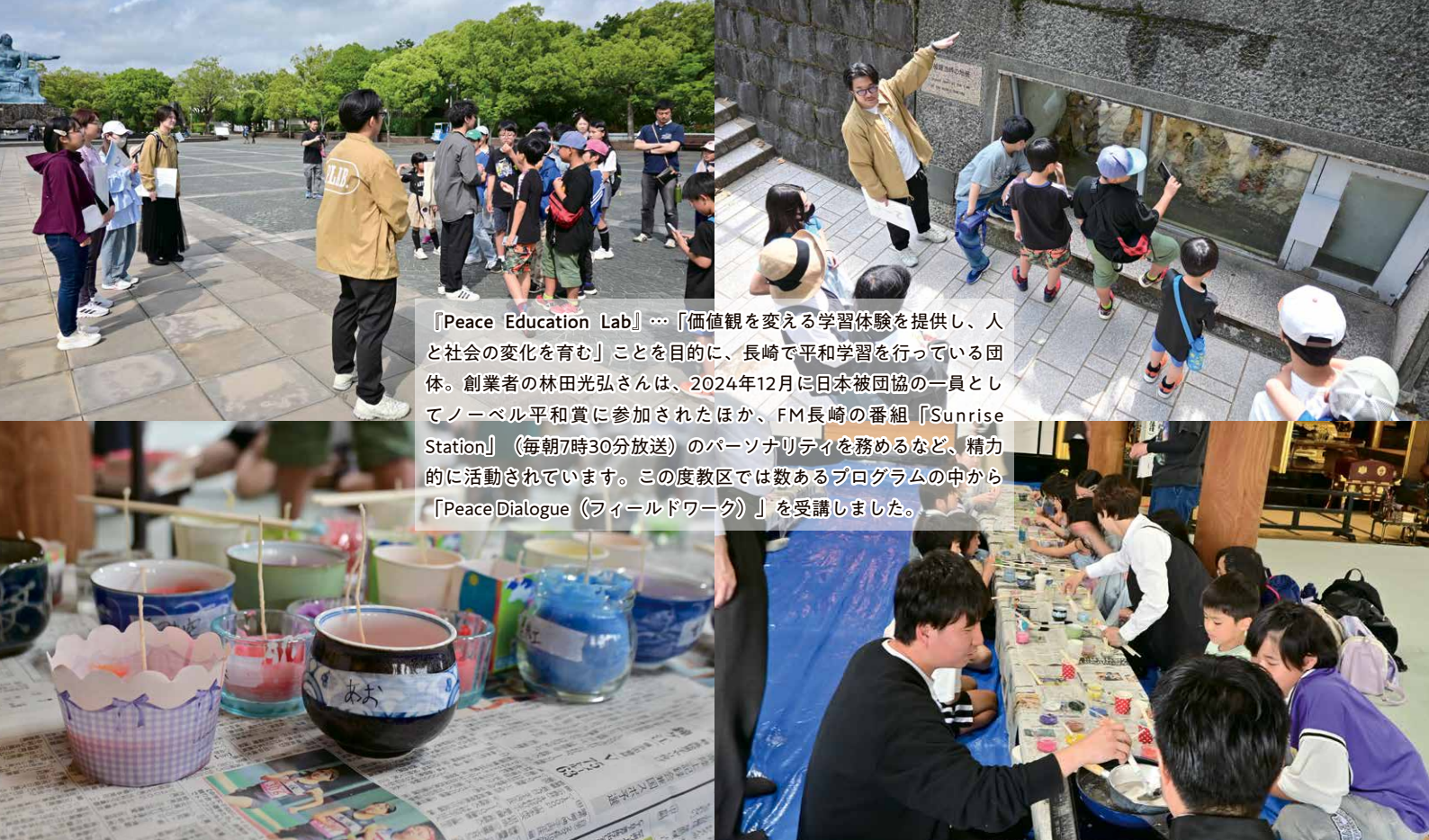
当日は曇り空で小雨が降る中、長崎の若者であり、ガイド役を務めてくださる「バディ」との初対面を迎えました。お互いに自己紹介を済ませ、いよいよフィールドワークが始まりました。まず訪れたのは「爆心地公園」です。そこでは、空に向かって聳え立つ「落下中心地標柱」や、当時の様子を今に伝える「被爆当時の地層」について説明を受けました。その後、横断歩道を渡り「平和公園」へと移動しました。途中の「旧松山町防空壕跡」では、バディの指導のもと防空壕の傍で空襲時に身を守る姿勢（円形になり頭を抱えてしゃがみ込み隣の人と肩が触れ合うまで密集）をとりました。さらにバディのスマートフォンから当時の空襲警報の音が流れ、当時の恐怖を疑似体験しました。平和公園に着いてからは、「平和の泉」や各記念碑を巡りながら協働学習を行い、最後に「平和祈念像」の前で、それぞれの想いを共有しました。

私が特に心に残ったのは、「爆心地公園」での体験です。バディから原爆投下前の詳細な地図（店名なども記

載）を示されながら、「この一帯は当時、商店が立ち並び、何でも揃う一等地のような場所だったのです」と説明を受けました。その瞬間、私は思いました。——私が今立っているこの場所で、原爆投下の直前まで多くの人々が日常の暮らしを営んでいた。買い物をし、働き、診療を受け、笑顔で語らい、家族と共に平凡な生活を送っていた。そう、今の私の生活と何ら変わらない。その当たり前の営みが、一瞬にして奪われ地獄へと変わったのだ——。そう思うと胸が締めつけられるようでした。

「平和祈念像」の右手は「原爆の脅威」を示していますが、その脅威はいまなお消えることなく、むしろ拡大していると感じます。もちろん、私ひとりの力で世界を変えることはできません。しかし、原爆の歴史を学び、自らの想いを発信し、まずは自分の心から平和を広げていこう——そう強く感じた1日となりました。





「Peace Education Lab」…「価値観を変える学習体験を提供し、人と社会の変化を育む」ことを目的に、長崎で平和学習を行っている団体。創業者の林田光弘さんは、2024年12月に日本被団協の一員としてノーベル平和賞に参加されたほか、FM長崎の番組「Sunrise Station」（毎朝7時30分放送）のパーソナリティを務めるなど、精力的に活動されています。この度教区では数あるプログラムの中から「PeaceDialogue（フィールドワーク）」を受講しました。

2025年度教区仏教少年連盟 ピースサンガ

教区仏教少年連盟委員長

小 野 真 世

（佐世保組 善定寺）



長崎教区少年連盟では5月10日、「ピースサンガ」を開催。子ども23人含む34人が参加しました。7月4日に営まれた「戦後80年全戦没者長崎教区追悼法要」の関連事業として行い、子どもたちとともに、あらためて平和について考える機会となりました。

午前、長崎組教宗寺の本堂を会場に、持ち寄った使用済のロウソクでキャンドル作りを行いました。器に、色とりどりの削ったクレヨンを入れ、スタッフが溶かしたロウソクを注ぐと、オリジナルキャンドルが完成します。子どもたちは、アロマオイルを入れるなど、自分だけのキャンドル作りに夢中でした。

終了前に、スタッフが「キャンドルの火は命の輝きでもあり、その火はこれからの平和をつなぐバトンのようなもの」と話すと、子どもたちは作ったキャンドルを新聞紙に包み、大切にカバンへしまっていました。

昼食後、長崎市の爆心地を訪れ、平和学習を行いました。

案内をしてくださったのは、長崎で平和をテーマに学習活動やイベントを行っている「Peace Education Lab」のスタッフの皆さん。子どもたちと、原爆が投下された地点に立つ「原爆落下中心地」をはじめ、近くの防空壕や平和公園などを巡りました。

各所での説明は、原爆の恐ろしさや当時の悲惨な状況を伝えるもの。慰霊碑の前で、「原爆で亡くなられた方は7万人を超える」という説明を聞き、子どもたちは真剣な表情で耳を傾け、当時の様子に思いを巡らせている姿が印象的でした。また、各所を巡りながら、ガイドの方はスケッチブックに書いた問いを子どもたちに投げかけました。

平和記念公園前の「平和の泉」では、水を飲みたくても油の浮いた水しかなく、それを飲んだ少女の手記を紹介。「もしも、当時助けを求められたら、自分ならどうしただろう？」という問いかけに、子どもたちはしばらく無言になりつつも、「助けることはできないかもしれないけど、放っておくのもきつい」「自分にできることはしてあげたい」など、それぞれの心の奥から出てくる言葉を紡いでいました。

戦後90年という時を迎える頃には、戦争を実際に体験した方はほとんどいなくなり、語り継ぐ人も少なくなっていくと思います。だからこそ、こうした機会を通して、今の子どもたちが平和の大切さを心に刻み、未来へとつなげていくことがますます重要になっていくと感じました。今ある平和に感謝しつつ、子どもたちの笑顔が失われない世界を願う、そんな行事となりました。



第二十一回『平和のつどい』～全戦没者追悼法要～

終戦八〇年にあたつて

教区門徒総代会 代表 井手尾 弘

(長崎組 教宗寺門徒)



八月十五日の終戦記念日を前後に、今年は各地で戦後八〇周年の記念行事が行われたのではないでしょう。本願寺長崎教堂においても、去る八月八日に『平和のつどい』～全戦没者追悼法要～が行われました。

開会に当たつての本願寺長崎教堂邊春真乗主管の挨拶の中で、「かつて浄土真宗は宗祖の教えに背き戦争を肯定した経緯がありました。現在はその反省に立っている。」との言葉がありました。ずっと疑問に思っていることがありました。それを聞いて胸のつかえが取れたような気がしました。というのも、かつて浄土真宗が多なる戦費の供出に協力したと聞いていた上に、殺生を嫌う立場のはずが、なぜ人と人が殺しあう戦争に加担したのだらうかとずっと思っていたからです。

かつて日本は富国強兵の旗印のもとアジア諸国に軍靴をどろかせ、多大な犠牲を強いてきた歴史があります。それなのに最近、世界情勢の緊迫化を理由に、備えのために軍備拡充が必要だと唱える人が多くなっている気がします。そうなれば、また同じ過ちを繰り返すことにならないでしょうか。過ちに気付き改める

ということとはとても大事なことです。二度と過ちを繰り返さないようにしたいものです。

記念講話では長崎原爆被災者協議会の森内實さんの被爆体験をお聞きしました。身内に関わる被災状況の証言はいずれも聞くに堪えがたい悲惨なものでした。長崎での原爆による被害状況は一九四五年末の統計では死者およそ七万四千人、重軽傷者およそ七万五千人とのことでした。今、原爆投下中心地を訪れると原爆による犠牲者数は二十万に達しようとする数が記録されています。原爆投下当時は体調的に何の問題もなかった人が五万人ほど亡くなっていることになります。それは原爆の放射能による影響であることは間違いありません。通常爆弾で被災し、辛い命を落とすことがなければ、重傷でない限りは回復するのが一般的です。しかし原爆は前述のように体調が特段悪くなくても後々体調を崩し、最悪死に至ることになるのです。また本人だけにとどまらず、子孫にまで悪影響を及ぼすことがあります。このような人の未来まで脅かす核兵器は地球上からなくなさなければなりません。

最後に、本願寺派布教使であり諫早組真楽寺住職の木山真英師の記念法話がありました。その中で戦後八〇年間、世界では戦火が絶えなかったこと、日本は戦争することは無かったが無関係だったとは言えず、最近では国防の名の下に日本は積極的に関わろうとする現状が見えていることに触れられました。改めて、宗祖の「世の中安穩なれ」「仏法ひろまれ」の遺訓を体として平和への営みを続けようと呼びかけられました。

今年はヒロシマ・ナガサキでは被爆八〇周年を迎え、また、日本被団協がノーベル平和賞を受賞しました。話を聞くだけにとどまらず、森内さんが話されたように平和に対する思いを共有し、これをばねとして核兵器廃絶の機運が世界中に広まるよう努めねばならないと感じました。



2025（令和7）年度 長崎教区 予算書

長崎教区一般会計予算歳入
【経常部】

款	費 目	2025(令和7) 年度予算	2024(令和6) 年度予算	対比△減	説 明
1	教 区 賦 課 金	30,868,970	21,600,000	9,268,970	
2	宗 派 交 付 金	11,885,000	14,127,000	△2,242,000	教化助成費、教区事務費ほか
3	懇 志	200,000	200,000	0	ご仏前（平和のつどい等）ほか（教区収納分）
4	願 記 手 数 料	700,000	500,000	200,000	申請書・願記冥加金
5	各 種 参 加 費	2,950,000	2,720,000	230,000	勤式指導所会費、得度講習会、研修会参加費（総代門徒幹部研修会等）ほか
6	雑 収 入	536,221	643,000	△106,779	コピー機等使用料、利息、伝達御礼ほか
7	回 付 金	3,000,000	10,000	2,990,000	（特）長崎教区平衡資金会計（歳出）1款1項教区一般会計回付金より
	繰 入 金	0	1,100,000	△1,100,000	費目削除
8	前 年 度 繰 越 金	4,309,809	4,500,000	△190,191	款繰上
	経 常 部 合 計	54,450,000	45,400,000	9,050,000	

【臨時部】 ※戦後 80 年全戦没者長崎教区追悼法要

款	費 目	予算額		対比△減	説 明
1	懇 志 協 賛 金	3,500,000		3,500,000	寺院懇志・参拝懇志等、寺院協賛金
2	関 連 行 事 参 加 費	300,000		300,000	法要関連行事（参拝・研修会等）参加費収入
3	雑 収 入	200,000		200,000	各教化団体助成金等
	臨 時 部 合 計	4,000,000		4,000,000	
	歳 入 合 計	58,450,000	45,400,000	58,450,000	

長崎教区一般会計予算歳出
【経常部】

款	費 目	2025(令和7) 年度予算	2024(令和6) 年度予算	対比△減	説 明
1	実 践 運 動 推 進 費	7,755,000	8,277,000	△522,000	会議・研修費、教学振興費、門徒推進費、人権・平和問題推進費広報費、勤式・得度講習会費
2	社 会 福 祉 事 業 費	15,000	15,000	0	矯正事業講演会費、社会福祉推進協議会費
3	会 議 費	1,310,000	1,270,000	40,000	教区会費、常備会費、組長会費、諸会合費
4	宗 会 議 員 選 挙 事 務 費	10,000	120,000	△110,000	
5	教 務 所 事 務 費	4,950,000	4,800,000	150,000	通信費、事務機器費、印刷・消耗費、備品費、出張費、デジタル関係費ほか
6	回 付 金	36,000,000	30,000,000	6,000,000	各会計へ回金（教堂一般会計、退職積立・平衡資金等）
7	予 備 費	1,410,000	918,000	492,000	
	経 常 部 合 計	51,450,000	45,400,000	6,050,000	

【臨時部】 ※戦後 80 年全戦没者長崎教区追悼法要

款	費 目	予算額		対比△減	説 明
1	法 要 行 事 費	5,500,000		5,500,000	庶務費、法要費、行事費、広報・記録費
2	本 山 ご 一 行 費	800,000		800,000	ご一行関係費
3	諸 費	300,000		300,000	
4	予 備 費	400,000		400,000	
	臨 時 部 合 計	7,000,000		7,000,000	
	歳 出 合 計	58,450,000	45,400,000	58,450,000	
	歳 入 合 計	58,450,000			
	歳 出 合 計	58,450,000			
	差 引 剩 余	0			

2025(令和7)年度行事予定

教堂・教区行事

○本願寺長崎教堂常例法座

日 時：2026(令和8)年 1月16日(金)15時～
ご講師：邊春 真乗 師(本願寺長崎教堂主管)
日 時：2026(令和8)年 2月16日(月)15時～
ご講師：緒方 正意 師(諫早組桃原寺)
日 時：2026(令和8)年 3月16日(月)15時～
ご講師：木山 響心 師(教堂職員)

※そのほか詳細等は、チラシ、長崎教区HP、Instagram等をご覧ください。

○門徒総代幹部研修会【ホテルフラッグス佐世保九十九島】

日 時：2026(令和8)年2月25日(水)～2月26日(木)
ご講師：遠藤 和雅 師
(本願寺派布教使/本山法式儀礼研究所主幹/岐阜教区西濃北組正覺寺御住職)

婦人会連盟

○教区寺族婦人・代表者研修会

日 時：2026(令和8)年2月12日(木)・13日(金)10時～
ご講師：松嶋 智讓 師
(本願寺派布教使/大分教区中津組照雲寺御住職)
参加組：12日(木)…長崎組、長崎西組、五島組、諫早組、諫東組
13日(金)…佐世保組、平戸組、島原西組、島原南組、島原北組

少年連盟

○仏の子どものつどい

日 時：2025(令和7)年12月25日(木)

青年連盟

○佐賀合同みのりこう【聞法会】

日 時：2026(令和8)年2月27日(金)19時～
ご講師：平尾 あゆみ 師
(本願寺派布教使/佐賀教区神崎組大立寺)
場 所：本願寺長崎教堂

※2025年11月時点での予定となります。詳細等は教務所までお問合せください。

布 教 団

○『口伝鈔』を読む会

日 時：2026(令和8)年 2月5日(木)16時～
ご講師：三栗 章夫 師
(長崎組發心寺御住職)

○教学・布教研修会

日 時：2026(令和8)年2月20日(金)13時30分～
ご講師：中島 昭念 師
(本願寺派布教使/山口教区美祢東組明嚴寺御住職)
森田 義見 師
(本願寺派布教使/山口教区下松組勝賢寺御住職)

○長崎教区・佐賀教区青年布教使交流会

日 時：2026(令和8)年3月4日(水)

壮年会連盟

○第2回仏教壮年研修会

日 時：2026(令和8)年2月7日(土)14時～
ご講師：足利 一之 師
(本願寺派布教使/東北教区宮城組専能寺御住職)

九 州 行 事

○九州地区仏青連盟リーダー研修会【大分】

日 時：2026(令和8)年2月7日(土)～8日(日)

○第5連区青年布教使大会【熊本】

日 時：2026(令和8)年2月18日(水)～19日(木)

○矯正教化九州管区研修会【北豊】

日 時：2026(令和8)年3月13日(金)

本 山 行 事

○仏青・青年指導者研修会

日 時：2026(令和8)年2月7日(土)～8日(日)

○全国布教使大会

日 時：2026(令和8)年2月9日(月)～10日(火)

○第44回少年連盟中央研修会

日 時：2026(令和8)年3月28日(土)～30日(月)

五島組
元海寺
様



御進納くださいまして
ありがとうございました。
心よりお礼申し上げます。

御進納
御礼

ご結婚おめでとうございます



諫早組 桃原寺
新郎 緒方 正意さん
新婦 岩下 晴香さん



諫早組 真楽寺
新郎 木山 響心さん
新婦 矢野 風花さん



島原北組 正覺寺(多比良)
新郎 隈部 蓮音さん
新婦 藤尾 真琴さん

仏前結婚式

編集・発行

「御同朋の社会をめざす運動
(実践運動)」
長崎教区委員会
記事についてのご意見、
ご要望、送付部数のご希望
は長崎教区教務所まで。



教区 H.P.
QR コード

Follow Me!



HONGWANJI.NAGASAKI
Instagram

はじめてます!!

島原南組 妙行寺 前住職
三隅 龍雄 様(九〇歳)
二〇二五(令和七)年六月十五日 往生
(十月三十一日現在)

生前の御苦勞を偲び、謹んで
お悔やみ申しあげます。

敬 弔

二〇二五(令和七)年十月十一日 就任
(十月三十一日現在)

新住職 末永 宗平 様
前任職 末永 龍生 様
佐世保組 明照寺
二〇二五(令和七)年七月四日 就任
新住職 野口 哲城 様
前任職 野口 哲英 様
(二〇二四(令和六)年十二月三十日 往生)

住職継職

諫早組 正源寺

前任職 野口 哲英 様